

脳性麻痺の機能的アウトカムを改善するための介入 機能的な目標を設定する

CPの子どもや若者に関わる臨床家のためのガイドライン

脳性麻痺の子どもや若者に関わる際には、意味のある目標を設定することがベストプラクティスである。介入の焦点となる、利用者中心で機能的な目標を設定することから始めるべきである。

目標は ...

利用者が選ぶこと

子どもにとって何が重要かを理解し、子どもにとって最も重要な活動への参加能力を向上させることに焦点を当てた機能的な目標を設定することに時間を費やすべきである。子どもが自分で目標を特定できない、あるいは明確にできない場合は、子どもの希望や関心を考慮した目標を設定するよう家族に促す。子どもや家族が目標を明確にしない場合は、セラピストはアウトカムの改善に焦点をあてた目標の設定をサポートしてもよい。

機能的であること

機能的な目標とは、ベッドの出入りができる、Tシャツを着ることができる、自転車に乗ることができるなど、実生活を想定した目標である。機能的な目標とは、筋力や感覚処理、関節可動域の改善など、根底にある機能障害に焦点を当てた目標ではない。長期的な目標を、より達成可能な小さな機能的な目標に分割することが重要な場合もある。

具体的であること

目標は、具体的、測定可能、達成可能、現実的、期限付き（SMART）でなければならない。目標は明確に定義され、子どもの能力と進歩に応じて段階的に設定されるべきである。目標を達成できる現実的な期間を設定する。達成可能な目標を設定する際には、目標をどうやって達成するかという計画を立てることが重要である。

チームで設定すること

子どもが複数の医療専門家と関わっている場合、子どもと家族を主体的なメンバーとして、チームとして目標を設定し、介入計画を立てることが重要である。
チームの目標を少数（2～4個）に設定することで、練習は的を絞った達成可能なものになり、子どもや家族は、提案される数の多さに圧倒されにくくなる。

目標が設定された後...



目標をどのように達成するかについて、子どもや家族と協力して計画を立てる。



目標のコピーを家族に渡すべきである。これには、目標を見直す時期を含める。



介入開始時と終了時に、Canadian Occupational Performance MeasureやGoal Attainment Scaleなどのツールを用いて目標を測定する。目標は、子どもの希望や能力の変化に対応できるよう、定期的に見直すべきである。